

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：14601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02112

研究課題名(和文) 日本伝統音楽の越境—植民地台湾における「邦楽」の伝承

研究課題名(英文) Cross border of Japanese traditional music

研究代表者

劉 麟玉 (LIOU, LIN-YU)

奈良教育大学・音楽教育講座・准教授

研究者番号：40299350

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：植民地台湾における日本伝統音楽の伝承状況を明らかにするために、当時の台湾で発行されていた日刊紙『台湾日日新報』と雑誌『台湾邦楽界』『台湾演芸と楽界』の記事から、演奏会一覧、邦楽師匠・演奏家一覧、ラジオ放送記録、台湾神社祭の余興に関するデータベースを構築した。また2016年3月と2017年3月に現地調査を行い、台北および台南の日本植民地時代の劇場等の跡地等を訪問して、当時の文化状況について確認した。研究成果は、2016年8月に台北で行われた第5回国際伝統音楽学会及び2017年11月に沖縄県立芸術大学で行われた第68回東洋音楽学会大会での口頭発表、および報告書として公開を行った。

研究成果の概要(英文)：Our research results are as follows: ()We have built databases of newspaper and magazine articles, including three magazines: Taiwan hogakukai, Taiwan engei to gakukai, and Sankyoku, as well as one newspaper: Taiwan Nichinichi Shinpo. ()We have conducted fieldwork regarding the old theaters that were built in Taipei, Keelung, and Tainan during the colonial period. We visited the old theater locations in Taipei and Keelung on 27th and 28th March 2016, and visited to the old theater locations in Tainan between 28th and 30th March 2017. ()We have presented and shared our research results at both domestic and international conferences. The first presentation was delivered in the 5th Symposium of the Musics of East Asia of International Council for Traditional Music (ICTM-MEA) held in Taipei on August 27th, 2016. The second presentation was given during the 68th Convention of the Society for Research in Asiatic Music. It was held in Okinawa on November 11th, 2017.

研究分野：音楽学

キーワード：音楽史 植民地台湾 伝統音楽 邦楽 台湾神社 ラジオ 三曲 劇場

1. 研究開始当初の背景

従来の植民地台湾に関する歴史研究およびポストコロニアリズムの研究では、台湾・台湾人が主体であり、権力者の政策がもたらした影響に注目されてきた。また、西洋音楽を含め、近代文明の受容という近代化の観点もしばしば言及されている。しかしながら、植民地領有した初期から台湾に移住した日本の庶民の生活史についてはほとんど研究されてこなかった。音楽文化の側面では日本人の音楽嗜好は西洋音楽よりも、「邦楽」の方が馴染みがあり、主流であったはずである。従って、本研究は先行研究を踏まえて以下の2点に注目し、研究を行った。(1)いままで看過されていた台湾に滞在した日本人の一般庶民の音楽生活に着目し、彼らの音楽嗜好と音楽伝承を主体として考察すること、(2)植民地時代に台湾人は日本の近世邦楽とは無縁であったと思込みがちであるが、台湾人がメディアを通して「邦楽」をどれほど聞いて、どのような影響を受け、その影響は台湾人の音楽文化にどれほど現れたのか、把握すること、である。

2. 研究の目的

本研究は従来の植民地台湾音楽史で注目されてこなかった台湾に越境してきた日本人と「邦楽」の植民地台湾との関わりを明らかにしたい。具体的に日本伝統音楽が植民地台湾の日本人社会で、いつからどのように伝承され、どのような役割を担い、台湾人社会にどのような影響をもたらしたのか、について探求することである。その詳細は以下の通りである。

- (1)台湾に伝承された近世邦楽、とりわけ三曲の流派および師匠と日本の流派を把握する。
- (2):日本と台湾で刊行された「邦楽」関係の雑誌を調べ、滞台した師匠と演奏者の情報を取得する。
- (3):日本から台湾に渡った日本伝統音楽の音楽家および台湾在住の日本伝統音楽の音楽家、指導者によって開催された演奏会情報を収集し、演奏された曲目の傾向を分析する。
- (4):昭和期から始まった台湾放送局のラジオ番組で放送された伝統音楽の曲目を整理し、データベースを作成する。それらのデータを通してどのような曲目が台湾で放送され、鑑賞されたのか把握する。
- (5):北白川宮能久親王を祀る台湾神社の明治期から昭和期まで40年分の台湾神社祭と邦楽団体および台湾人音楽団体との関わりを把握する。

3. 研究の方法

- (1)台湾で刊行された雑誌『台湾邦楽界』『台湾演芸と楽界』の内容を考察し、台湾に滞在した日本伝統音楽の師匠と演奏者の情報を

調べる。また、必要に応じて関係者への聞き取り調査を行う。

- (2)台湾で発行された新聞紙『台湾日日新報』を調べ、日本伝統音楽の演奏会情報、ラジオ番組の内容およびお祭りの余興の情報を把握する。

4. 研究成果

(1)新聞雑誌の関連記事のデータベースの構築

雑誌『台湾邦楽界』、『台湾演芸と楽界』と新聞紙『台湾日日新報』など第二次世界大戦以前に刊行された雑誌と新聞の記事やエッセイに記載された内容をデータベース化した。具体的には、『台湾邦楽界』、『台湾演芸と楽界』に掲載されている演奏会一覧、および日本伝統音楽の師匠と演奏家一覧(名簿と住所を両方含む者もある)、『台湾邦楽界』に収録されたラジオの「邦楽放送日記帳」、『台湾日日新報』に掲載されているラジオ番組放送例および台湾神社祭余興の事例、である。

(2)植民地台湾時代に建設された劇場の現地調査

台湾の研究協力者である石婉舜先生(現・国立清華大学教授)と頼品蓉氏(現・国立台南歴史博物館専任助理)の協力を得て2回の現地調査を行った。1回目は2016年3月26日から30日まで、2回目は2017年3月27日から3月31日までの日程であった。1回目(3月27日~28日)は台北市内と基隆市内で建設された劇場の所在地、2回目(3月28日~30日)は台南市内の主要地域と麻豆区の製糖会社と劇場の所在地を踏査し、劇場と日本人、台湾人の生活圏との距離や環境および現状について確認した。2回の調査の結果、台北市と台南市の文化状況の特徴が明らかになった。台北市では日本人の居住地が台湾人の居住地とは別の場所に作られたため、日本人が建てた演芸場の場所は日本人区に、台湾人の演芸場は台湾人区にあり、台湾人と日本人の演芸場の場所は明確に分かれていた。一方、台南市の場合は日本人と台湾人の居住地は混在していたため、両者が共通して利用する演芸場も存在し、お互いの伝統芸能や文化が交流した可能性が極めて高いことが分かった。

(3)研究成果の発信

本共同研究の研究期間中に2回の口頭発表を行った。1回目は2016年8月25日から27日まで台湾台北市の中央研究院で開催された第5回国際伝統音楽学会(ICTM, International Council for Traditional Music)の東アジア音楽部会シンポジウム ICTM-MEA (Symposium of the Musics of East Asia (MEA) ICTM Study Group)に参加し、“Traditional musics of Japan in the colonial Taiwan (1895-1945)”という題目で

パネル式の研究発表を行った。2 回目は 2017 年 11 月 11 日から 12 日まで沖縄県立芸術大学で開催された第 68 回東洋音楽学会大会にてセッション「植民地台湾(1895-1945)における日本伝統音楽の実践についての考察」という題目に基づいて共同研究者がそれぞれのテーマで研究報告した。

さらに、2018 年 3 月にこの 3 年間の研究成果をまとめて『研究成果報告書』を刊行した。『研究成果報告書』は 6 つの部分によって構成され、すなわち、「1 はじめに」、「2 研究報告」、「3 発表原稿」、「4 研究協力者からの資料提供」、「5 資料集」、「6 あとがき(謝辞)」である。「1」から「5」までの具体的な内容は次の通りである。

「1 はじめに」では本研究の趣旨と概要と、本報告書の編集方針について記した。

「2 研究報告」では、研究組織の 4 人がこの 3 年間の各自の研究課題の研究経緯や明らかになったことについてまとめた。それぞれの題目は以下の通りである。

- (1) 徳丸吉彦「日本統治時代の台湾における日本伝統音楽研究のために」
- (2) 小塩さとみ「植民地台湾における日本人の音楽活動—『台湾邦楽界』を中心に」
- (3) 福田千絵「植民地台湾における邦楽演奏会研究」
- (4) 劉麟玉「台湾神社祭の余興を通して見た植民地台湾の音楽文化の変容」

「3 発表原稿」では第 5 回国際伝統音楽学会東アジア音楽部会シンポジウム ICTM-MEA および第 68 回東洋音楽学会大会の発表原稿を採録した。

「4 研究協力者からの資料提供」は、海外研究協力者の石婉舜氏と頼品蓉氏の研究成果に基づいて作成されインターネット上で公開されている「台湾老戲院文史地図(1895-1945)」(<http://map.net.tw/theater/>)の紹介文を日本語に訳したものである。

「5 資料集」はこの 3 年間で費やして作成したデータベースである。データベースには次の資料が含まれている。

- (1) 「資料 1. 調査対象雑誌『台湾邦楽界』と『台湾演芸と楽界』(国立台湾図書館蔵)の書誌変遷」(小塩さとみ作成)
- (2) 「資料 2. 『台湾邦楽界』『台湾演芸と楽界』(創刊号~22号)掲載の演奏会一覧」(福田千絵作成)
- (3) 「資料 3. 『台湾邦楽界』『台湾演芸と楽界』(創刊号~22号)に基づく邦楽師匠・演奏家一覧(名簿および広告記事による住所判明者)」(小塩さとみ作成)
- (4) 「資料 4. 『台湾邦楽界』収録のラジオ放送記録—「邦楽放送日記帳」に基づく—」(小塩さとみ作成)
- (5) 「資料 5. 昭和 8 年のラジオ番組放送例—『台湾日日新報』(昭和 8 年 6 月 1 日~10 日)のラジオ欄に基づく—」(小塩さとみ作成)
- (6) 「資料 6. 『台湾邦楽界』連載「台湾三曲

界今昔物語」(山崎嵐彩著)の翻刻—初期植民地台湾の邦楽状況に関する記述の抜粋—」(小塩さとみ作成)

(7) 「資料 7. 『台湾日日新報』台湾神社祭余興の関連記事」(劉麟玉作成)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計 8 件)

劉麟玉 (Liou, Lin-Yu)

(1) “An opportunity to observe an interaction between Taiwanese and Japanese music: A case study of the annual Taiwan Shrine Feast,” The 5th Symposium of the Musics of East Asia (MEA) ICTM Study Group, Academia Sinica, Taipei, 25 Aug. 2016

(2) 「植民地台湾における台湾神社祭の余興についての一考察—文化接触の観点から」第 68 回東洋音楽学会大会(2017 年 11 月 12 日 沖縄県立芸術大学)

徳丸吉彦 (Tokumaru, Yosihiko)

(1) “Introduction of Traditional musics of Japan in the colonial Taiwan (1895-1945),” The 5th Symposium of the Musics of East Asia (MEA) ICTM Study Group, Academia Sinica, Taipei, 25 Aug. 2016

(2) 「序説: 植民地台湾(1895 - 1945)における日本伝統音楽の実践についての考察」第 68 回東洋音楽学会大会(2017 年 11 月 12 日 沖縄県立芸術大学)

小塩さとみ (Oshio, Satomi)

(1) “Traditional musics of Japan in colonial Taiwan, as seen from radio programs” The 5th Symposium of the Musics of East Asia (MEA) ICTM Study Group, Academia Sinica, Taipei, 25 Aug. 2016

(2) 「植民地台湾における日本の伝統音楽の演奏状況 —『台湾邦楽界』の記事を中心に」第 68 回東洋音楽学会大会(2017 年 11 月 12 日 沖縄県立芸術大学)

福田千絵 (Fukuda, Chie)

(1) “The activities of the *koto* and *syakuhati* (*shakuhachi*) performers in Taiwan during the 1920s and 1930s,” The 5th Symposium of the Musics of East Asia (MEA) ICTM Study Group, Academia Sinica, Taipei, 25 Aug. 2016

(2) 「本土音楽家の台湾演奏旅行—宮城道雄と吉田晴風を中心に」第 68 回東洋音楽学会

大会(2017年11月11日沖縄県立芸術大学)

〔その他〕(1件)

(研究成果報告書)

『日本伝統音楽の越境—植民地台湾における「邦楽」の伝承—』平成27～29年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金【基盤研究(C)】課題番号15K02112)研究成果報告書(160頁)

6. 研究組織

(1)研究代表者

劉 麟玉(LIOU, Lin-Yu)

奈良教育大学・音楽教育講座・准教授

研究者番号: 40299350

(2)研究分担者

徳丸 吉彦(TOKUMARU, Yosihiko)

聖徳大学・音楽学部・教授

研究者番号: 00017138

(2)研究分担者

小塩 さとみ(OSHIO, Satomi)

宮城教育大学・教育学部・教授

研究者番号: 70282902

(2)研究分担者

福田 千絵(FUKUDA, Chie)

お茶の水女子大学・グローバルリーダー

シップ研究所・研究協力員研究協力員

研究者番号: 10345415

(4)研究協力者(海外)

石 婉舜(SHIH, Wan-Shun)

国立清華大学・台湾文学研究所・教授

頼 品蓉(LAI, Pin-Jung)

国立台湾歴史博物館・専案助理